

資料3



埼玉県マスコット  
「コバトン」「さいたまっち」

# 埼玉県学調を中心とした学力向上施策の概要と C B T 化に向けた展開

～埼玉県学調を中核としたP D C Aの推進～

令和3年3月30日(火)  
埼玉県教育委員会

# 1 埼玉県学力・学習状況調査について：（１）調査の概要

## ○今年度の埼玉県学力・学習状況調査（埼玉県学調）の概要

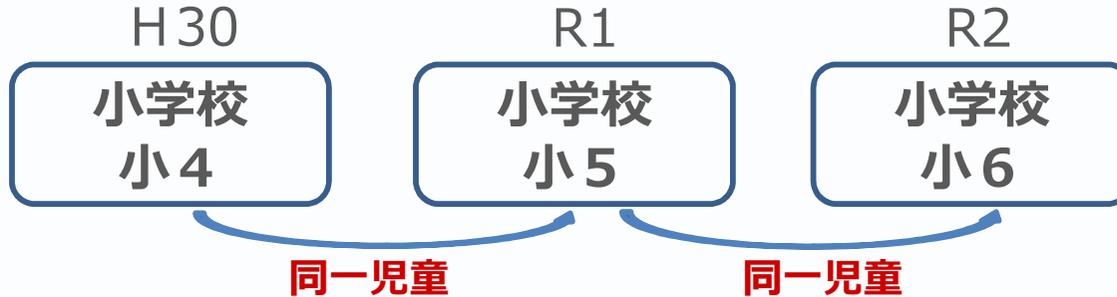
実施日	令和2年6月1日（月）～7月16日（木） ※例年は4月中旬に同一日で実施（令和元年度は4月11日）									
調査対象	<p>県内の公立小・中学校（さいたま市を除く）に在籍する          小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒 約30万人（1学年5万人×6学年）</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校</td> <td>587 / 702校</td> <td>約123,000 / 約151,000人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>305 / 355校</td> <td>約121,000 / 約147,000人</td> </tr> <tr> <td>義務教育学校</td> <td>1校</td> <td>約100人</td> </tr> </table> <p>※今年度は、62市町村中56市町村で実施</p>	小学校	587 / 702校	約123,000 / 約151,000人	中学校	305 / 355校	約121,000 / 約147,000人	義務教育学校	1校	約100人
小学校	587 / 702校	約123,000 / 約151,000人								
中学校	305 / 355校	約121,000 / 約147,000人								
義務教育学校	1校	約100人								
調査概要	<p>（１）児童生徒に対する調査</p> <p>ア 教科に関する調査</p> <p>小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数          中学校第1学年 国語、数学          中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語</p> <p>・出題数は、各学年26～35題（出題形式は選択式・短答式・記述式の混合（紙媒体））</p> <p>イ 質問紙調査</p> <p>学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項          （質問数は、学年により90～104項目）</p> <p>（２）学校及び市町村教育委員会に対する調査</p> <p>学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項</p>									
特徴	<p><b>学力の伸び（経年変化）などを継続して把握することのできる調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校第4学年から中学校第3学年までの同一児童生徒を継続して把握</li> <li>・PISA（国際学力到達度調査）と同様の調査手法（項目反応理論）を採用</li> </ul>									

# 1 埼玉県学力・学習状況調査について：（２）埼玉県学調の特徴

## ①一人一人の学力の伸び（変化）を継続して把握できる調査

パネル  
データ

→ 同一児童生徒の変化を継続的に把握



IRT  
項目反応理論

→ 出題する全ての問題に同一尺度で難易度を設定（PISAやTOEFLと同様の調査理論に基づく）

- 異なる調査間での学力の比較が可能  
(⇔多くのテストでは、点数が上昇しても「テストが易しかった」のか「本人が努力した」のかが分からない)

➡ 学力の伸び(変化)の継続把握を実現

## ②非認知能力・学習方略にも注目した調査

非認知能力  
学習方略

- 非認知能力：学力等の認知能力以外の様々な力（自制心、自己効力感、勤勉性、やり抜く力）
- 学習方略：子供が学びに向かうときの態度や学習の仕方（計画的な学習、柔軟な学習 等）

## <参考>「学力のレベル」と「学力の伸び」について

- ※ 本調査では、学力を「学力のレベル」として提示している。  
→ 小学校4年生から中学校3年生までのすべての問題に難易度を設定することで、学力のレベルを測定している。

### ○ 本調査における「学力のレベル」の考え方

- ・ 「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

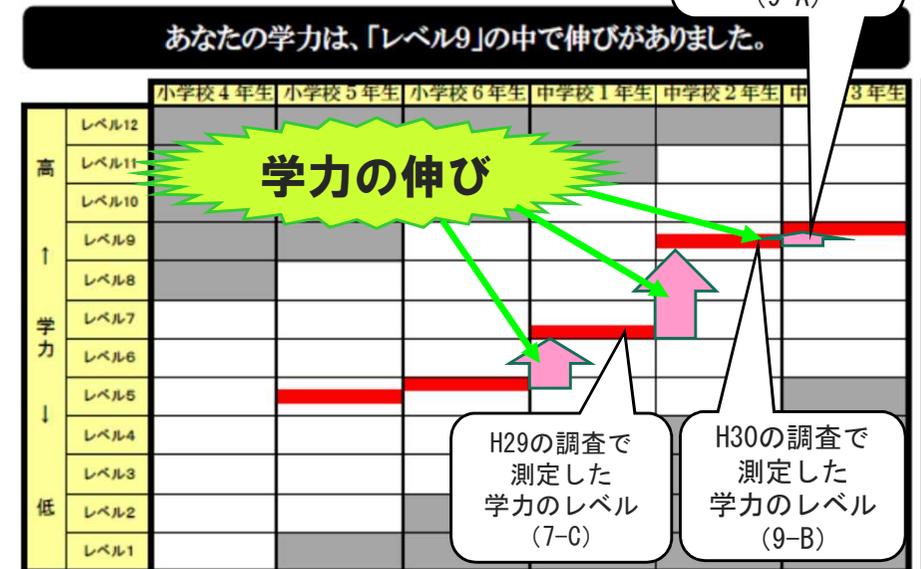
### ○ 本調査における「学力の伸び」の考え方

- ・ 年度間の「学力のレベルの差」を学力の伸びと捉える。

- 全部で12のレベルがあります。  
(各学年では測定可能なレベルは7レベル)
- 1つのレベルをさらに3層(A～C)に分割。

## 数学

### 今までの学力の変化



## <参考> 出題問題と指導改善に向けた取組の例①

(参考) 出題問題の例：中学校3年生の国語

【学習発表会のご案内の下書き】

10月10日
地域のみなさま
第三中学校生徒会
<b>学習発表会のご案内</b>
拝啓 秋の風が心地よく感じられる季節になりました。
さて、第三中学校では来月、 <u>学習発表会</u> を開催します。
1年生は地域の自然、2年生は地域の産業、3年生は、 <u>修学旅行先</u> について調べたことを発表します。地域のみなさまにもインクビューなどを通じ多くの協力をして <u>もらいました</u> 。その成果をぜひご覧ください。休憩時間には、ダンス部による <u>演技</u> もあります。ご <u>来校</u> をお待ちしています。
敬具
記
1. 日 時 11月1日(土) 午後1時～午後4時
2. 場 所 第三中学校 体育館
3. その他 <u>駐車場はございません。公共の交通機関をご利用ください。</u>
以上

- 6 次の、生徒会役員の木村さん書いた【学習発表会のご案内の下書き】を読んで、あとの問いに答えなさい。
- (3) 一線部について、他の生徒会役員から一文にまとめたほうがいいと言われました。一文にまとめて書き直しなさい。

### ○ 調査問題の趣旨・内容

【問題概要】 接続表現を用いて一文にする。

【出題の趣旨】 文の要旨を理解し、文章をまとめる。

### ○ 誤答分析

解答類型	① 正答	2 一文にまとめているが内容が違う。	3 一文にまとめている。	9 その他	0 無解答
反応率	67.8%	21.8%	0.3%	7.3%	2.8%

○ 正答率は67.8%だった。

○ 誤答については、一文にまとめているが内容が違うというものが21.8%であった。「駐車場はないので、公共の交通機関をご利用ください。」のように前半の敬語表現が欠落したり、「駐車場はございませんので、電車をご利用ください。」のように一部内容が変わってしまったことが考えられる。

○ 指導上のポイント

目的や意図を明確にして作成したお知らせを推敲する指導

<学習活動例> ○地域の人に配布する、文化祭のお知らせを推敲する。



いよいよ地域の人に、お知らせを配布します。どのようなところを直せばよいですか。



○月○日

地域のみなさま

コバトン中学校文化祭実行委員会

第○回文化祭のお知らせ

秋も深まって参りました。

さて、コバトン中学校の文化祭を下記のとおり開催します。どうぞお感しく下さい。

記

1 日 時 ○月○日 9:00~16:00

2 場 所 コバトン中学校 校舎・体育館

3 その他 できるだけ徒歩で来てください。駐輪場はありますが、教台しか止められません。

地域の人へ宛てた文書だから、丁寧な言葉遣いの方がいいね。時候の挨拶も重要だね。



時間や場所が漠然としすぎていると思う。裏面に各クラスの出し物や、開催時間の一覧表を掲載したらいいと思う。



その他には、注意事項を箇条書きで書いた方が分かりやすいね。



小学校6年生を招待するとしたら、どのような案内文がふさわしいでしょうか。違いを考えてみましょう。

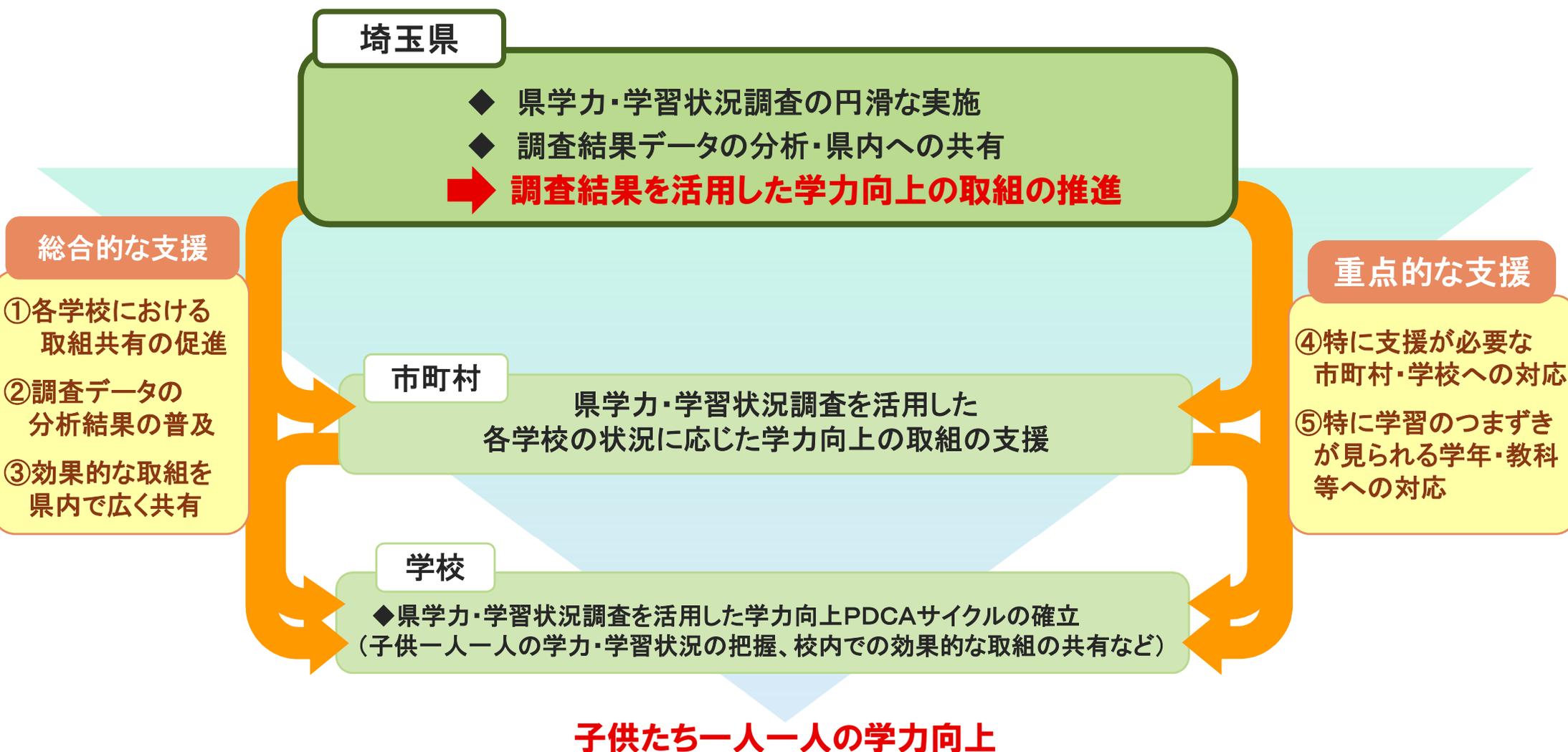
小中連携  
の視点

問題の一部を公開し、指導改善に活かしている

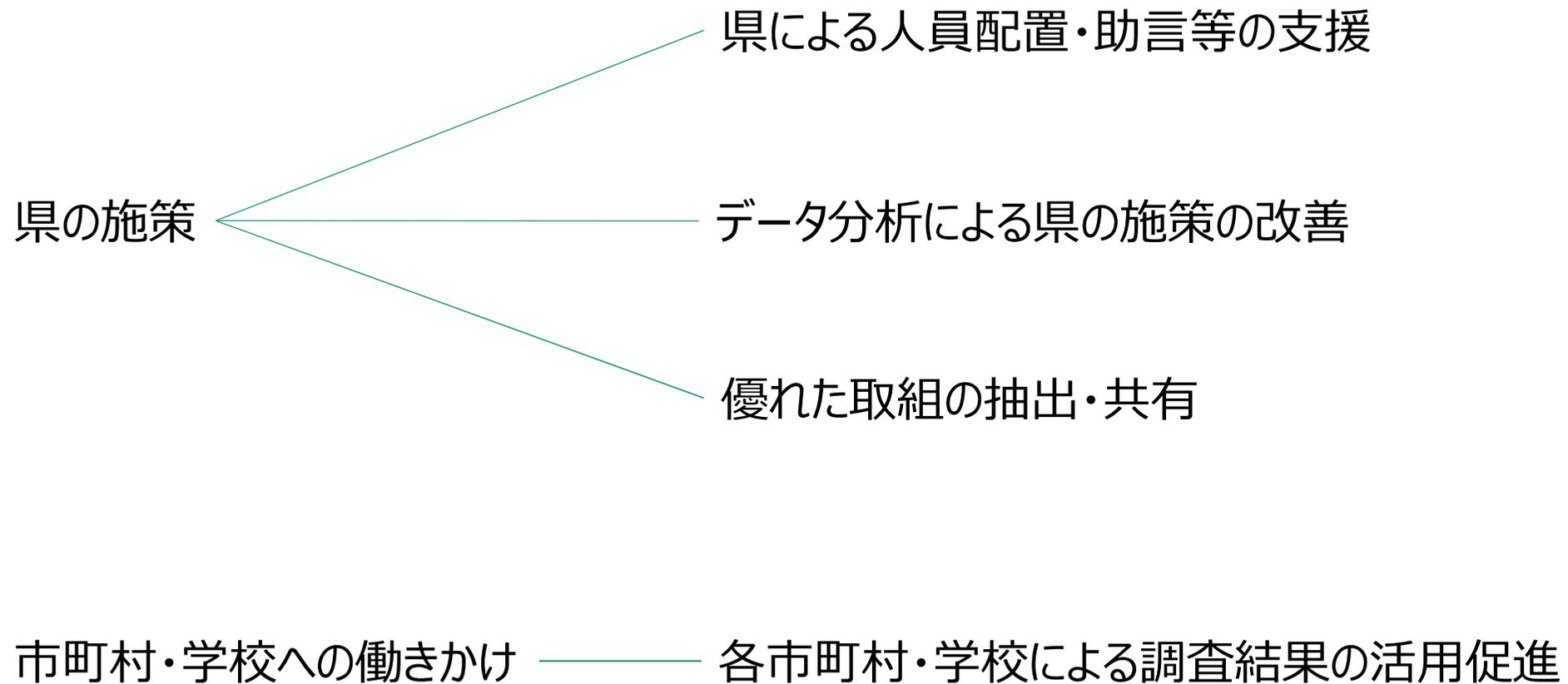
## 2 埼玉県の学力向上施策について：（１）市町村・学校への支援の全体スキーム

＜基本方針：市町村・学校との一層の連携・協働による重層的な支援＞

- 県学力・学習状況調査のデータを十分に活用し、学力を伸ばしている良い取組を発掘・共有する文化やネットワークを各市町村・各学校に構築する。【総合的な支援】
- 伸び悩みを抱える市町村・学校を徹底的に支援することで、子供たちの学力向上を図る。【重点的な支援】



## 2 埼玉県の学力向上施策について：（2）施策の全体像



## 2 埼玉県の学力向上施策について：（3）人員配置・助言等の支援

施策名	事業コンセプト	支援類型	実践例
未来を生き抜く人財育成 学力保障スクラム事業	家庭の経済状況などから学力に課題を抱える小学校3～5年生の児童に対する教育的支援の方法をモデル校で研究。	・教員配置 ・県による訪問・助言	授業内外での支援、家庭・地域との連携
「チーム埼玉」学力向上 パワーアップ事業	規模が小さいなどの理由で自力での学力向上に悩みを抱える市町村を支援。	・県による訪問・助言	学習支援カルテの活用及び授業研究会の実施
学力向上研究校 指定事業	県学調・全国学調の結果等を活用した実践的研究を行い、取組の成果を県内に普及。	・教員配置 ・県による訪問・助言	学習支援カルテの活用及び授業研究会の実施
重点支援	前年度の県学力・学習状況調査で「学力が伸びた児童生徒の割合」が県平均を下回る状況などにある小中学校を重点的に支援。	・教員配置 ・県による訪問・助言	埼玉県学調及び全国学調に基づく学力向上PDCAサイクルの確立（調査結果の分析、良い取組の共有等）
学力向上 プロジェクト教員	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善や県学調に基づくPDCAを進める上で核となる教員を選定し、当該教員が他の教員を支援。	・教員配置 ・県による訪問・助言	示範授業の実施、他教員の授業の指導


 令和元年度は、県教委から市町村・学校に計268回訪問。  
 全国学調・埼玉県学調を活用した学力向上等について助言し、取り組むべき方策をともに検討。

## 2 埼玉県の学力向上施策について：（４）データ分析による県の施策の改善

### <埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業（H28～R1）>

埼玉県では、埼玉県学調の調査結果のデータを、統計学や教科教育の専門的知見を有する研究機関に提供して分析を委託し、施策の改善に活用（委託先：慶應義塾大学SFC研究所）。

また、同事業では、「主体的・対話的で深い学び」の研修モデルの検討や、どのような指導改善を行えば学力や非認知能力・学習方略を向上させる授業ができるのかにつき検討するためのアクション・リサーチを実施。

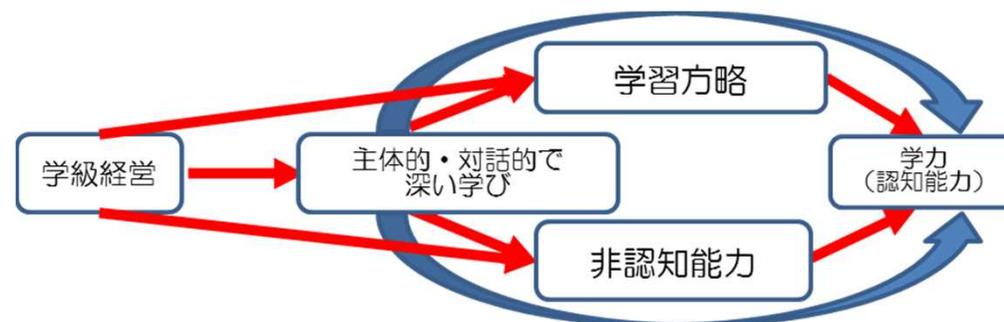
（データ分析結果の例）

#### ➤ 学力向上に向けた取組

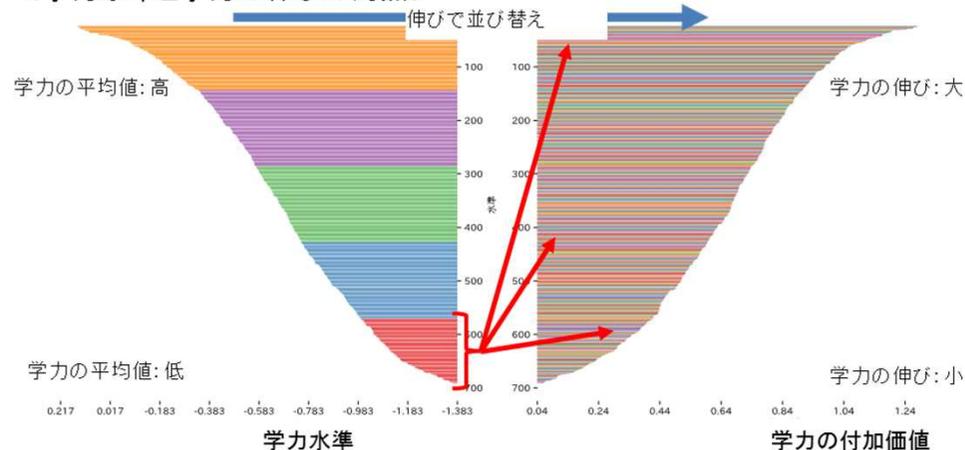
教員が「主体的・対話的で深い学び」や「学級経営」に取り組むことで、子供の「非認知能力」「学習方略」を改善させ、ひいては学力の向上につながっている。

#### ➤ 学力が高い学校≠学力を伸ばしている学校

学力が高い学校であっても、学力を伸ばしているとは限らない。逆に、学力が低くても、学力を大きく伸ばしている場合もある。



<学力水準と学力の伸びの対照>



（アクション・リサーチの概要）

教科教育の専門家の協力を得て、特定の教員に研修などによる働きかけを行い、それにより授業改善に向けた教員の意識や子供達の学習方略等の変化について見取りを行う取組。

# AIを活用した学びの実践研究事業

～県の学力調査結果などのデータとAIを活用し、子供一人一人に応じた指導の実現を目指す～

県に蓄積されたビッグデータ

小中高の学校が保有するデータ

## ①県学力調査と学校保有データのAI分析

科目	得点	学力	学力変化	学年
国	85	高	↑	中
算	78	中	↑	高
理	72	低	↓	高

県学力・学習状況調査データ  
(毎年度約30万人の小中学生が受検)

定期考査等

生活習慣アンケート等

体力テスト  
部活動の状況

学校保有データはデータベース化や蓄積手法の研究が必要

子供の過去・現在の学習のつまずきの把握や、多くのデータパターンから将来の学力の状況などを予測

## ②AIによる分析結果(成果物)を、小・中・高のモデル校で教員が実際に活用し検証

<成果物イメージと活用例>

### 個別アドバイスシート

学習内容の定着状況や生活習慣、AI分析が導き出した復習ポイント、改善に向けたアドバイスなどを提示

個人面談などで活用

### 学級別アドバイスシート

学級内の子供一人一人の学習面・生活面の状況を踏まえ、改善に向けた視点などを提示

授業づくりや学級経営などで活用

### 個別学習教材

個々の理解度や復習ポイントに対応した練習問題の提供

授業の演習や家庭学習などで活用

## 2 埼玉県の学力向上施策について：（５）優れた取組の抽出・共有

○埼玉県学調からは、児童生徒の学力を優れて伸ばした教員を抽出可能

→「埼玉県学力・学習状況調査活用リーフレット」の作成

…学力を伸ばしている教員から県がヒアリングを行い、授業や学級経営、学力調査の活用等でのどのような取組を行っているかをとりまとめ、各学校に配布。

→「良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業」の実施

…学力を伸ばしている教員の授業を撮影し、専門家の助言を付した動画を作成。研修資料として活用することで、県内全域で授業改善を進める。

（埼玉県学力・学習状況調査活用リーフレット（抜粋・小学校用）） 「良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業」事業内容

### 授業では

#### 学習内容を明確にしました！

- 「今日は〇〇ができれば満点」のように、授業のゴールを示すようにしました。
- 本時の内容が、他の教科書ではどのように扱われているのかを見比べて教材研究をしました。

#### 発言の取り上げ方を工夫しました！

- 挙手する児童の発言だけで授業を進めないようにしました。（児童の発言を聞く、繋ぐ、返す）
- 「なぜ？」という問い返しを何度も行いました。

#### 学力層に応じた支援を心掛けました！

- 早く問題を解き終えた児童のために、プラスアルファのプリントを準備しました。
- 課題に取り組めない児童のために、穴埋め式のワークシートやヒントカードを用意しました。

#### まとめ・振り返りを必ず行いました！

- 課題に正対したまとめを、児童と一緒に考えるようにしました。
- どの授業でも必ず、自分が学んだことを振り返る（見直す）時間を設定しました。

#### 導入を工夫しました！

- 日常生活と関連付けるなど、解決の必要性を感じさせる課題を設定しました。
- 課題は児童とともに設定しました。
- 導入場面では、掲示物等を活用し、本時の学習内容に関係のある既習事項を復習しました。

#### 学び合う場面を設定しました！

- 児童同士が自由に関わる時間を設定しました。
- 自分の考えだけでなく、ペアを組んだ相手の考えを説明する場面を設定しました。
- 教員が範を示しながら、児童同士が互いの発言に問い返しができるようにしました。

#### 板書やノートを充実させました！

- 課題は青、まとめは赤で囲むなど、板書とノートの色使いを統一しました。
- 1時間の思考の流れが分かるような板書づくりを意識しました。
- 板書を写真に撮り、教員同士で共有しました。



### 良い授業を見つける！

県学調の結果データから子供の学力を伸ばしている授業を抽出

R1 クラス	伸びた児童の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	74.8%	75.1%

### 良い授業を広める！

良い授業を撮影し、専門家などの解説を付した動画を作成



### 良い授業を学ぶ！

作成した動画を研修や自主研究などで活用





### 3 児童生徒や市町村・学校への返却資料：(1) 個人結果票①

#### 質問紙調査の結果 ～規律ある態度の達成目標～

##### 「規律ある態度」を身に付けることで…

- ・集中して授業に取り組めるようになり、授業がよくわかるようになります。
- ・ルールやマナーが身に付き、学校の活動がもっと楽しくなります。
- ・自分も周りの人も、気持ちよく生活できるようになります。

##### 達成目標とその達成状況

☆は達成度の「よくできる」、「おしいでできる」、「あまりできない」、「できない」の中から、「よくできる」、「おしいでできる」を選択したことをあらわしています。

達成目標		R2
けじめのある生活ができる	1 時刻を守る 全下校時刻を守ることができていますか	
	授業や活動の始まる時刻を守ることができていますか	
身の回りの整理整頓をする	2 机の周りの整理整頓をする 机やロッカーの中、身の回りの整理整頓とんすることができていますか	
	だれに対しても進んで挨拶をすることができていますか	
礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をします 名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事をすることができていますか	
	4 ていねいな言葉づかいを身につける 相手と適切に適切な言葉遣いができていますか	
約束やままりを守ることができる	5 学習のままりを守る 学習の準備を整え、授業に臨むことができていますか	
	6 生活のままりを守る 先生の話をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができていますか	
	人の集まる場所では静かにし、その場にあそびたい態度をとることができていますか	
	進んで掃除や美化活動に取り組む、学校をきれいにすることができていますか	

##### ご家庭へのメッセージ

ご家庭で一人一人の力を確実に伸ばすためには…

ご家庭では調査の結果を見て、お子さんの「よいところ」、「努力が必要なところ」を把握し、一人一人のお子さんに合った「目標設定」をし、「家庭学習の習慣化」を図ることが効果的です。

また、お子さんと、「時間を守る」、「あいさつをする」など、ルールやマナーを守ることの大切さについて、あらためて話し合い、確認することが重要です。

お子さんのやる気を高めるには、調査の結果を見て、よかったところや伸びたところをほめて、お子さんたちに自信を持たせると効果的です。

自由記述らん

### 令和2年度 埼玉県学力・学習状況調査 個人結果票【中学校3年生】

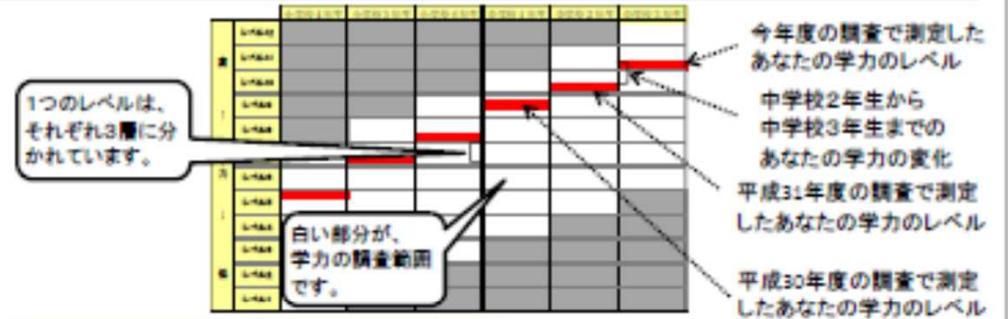
学校名	個人番号	姓	名	性別
-----	------	---	---	----

#### 埼玉県学力・学習状況調査を通して

この調査の目的は、子供たちの「学びの学習」、「遊びの学習」、「生活の学習」を育むための調査です。お子さんたちを育む、「おひるの時間」、「おひるのスピード」は遅いですが、一人一人はしっかりと成長しています。私たちは、お子さんたちが現在の学力を誇り、「どれだけ自分の伸びたか」を誇り、目標を定めていくことを大切にしたいと考えています。そして、目標を持ったお子さんたちが、自分自身に誇り、自分のよさを活かしていけるような教育を始めていきたいと考えています。

#### 教科に関する調査結果(2～3ページ)の見方

この調査では、各学年における学力のレベルがわかります。レベルが上がるほど難しい問題を解くことができます。過去の結果と比べることで、「学力の伸び」を確認できます。



#### それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例

レベル	国語	数学	英語
レベル12	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「漢字の書き下し文に就いて適切な語を導く」)	計算の過程を利用して、2変数の関数が与えられた場合の関数の値を求める(「関数のグラフから、平均値の定理の応用を求めよ」)	読者の感情や態度を読み、書き手の伝えようとする意図に留意し、読者の感情や態度を読み(「本文中の語句や表現から読者の感情や態度を読みよ」)
レベル11	文章の構造を基に内容の整理を導く(「漢字の活用形を導く」)	文章について、適当な変換を利用して解く(「2変数の関数のグラフから関数の値を求めよ」)	読者の感情や態度を読み、内容を読みよ(「本文中の語句や表現から読者の感情や態度を読みよ」)
レベル10	文章の構造を基に内容の整理を導く(「文中から適切な語を導く」)	文章について、適切な変換を利用して解く(「1変数の関数のグラフから関数の値を求めよ」)	読者の感情や態度を読み、内容を読みよ(「本文中の語句や表現から読者の感情や態度を読みよ」)
レベル9	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	読者の感情や態度を読み、内容を読みよ(「本文中の語句や表現から読者の感情や態度を読みよ」)
レベル8	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	読者の感情や態度を読み、内容を読みよ(「本文中の語句や表現から読者の感情や態度を読みよ」)
レベル7	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	読者の感情や態度を読み、内容を読みよ(「本文中の語句や表現から読者の感情や態度を読みよ」)
レベル6	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	文中の語に意味の範囲を定め、活用形を導く(「文中から適切な語を導く」)	読者の感情や態度を読み、内容を読みよ(「本文中の語句や表現から読者の感情や態度を読みよ」)

#### 学習に関するアドバイス

今回の学力の状況や、今後、どのような学習をすれば、あなたの学力が上がるのかを記載しています。

- ※ 上記で示す学力は、この調査で測定したものであり、お子さんの学力のすべてではありません。
  - ※ 埼玉県学力・学習状況調査(保護者用リーフレット、結果概要、復習シートなど)については、県ホームページをご覧ください。
- 県ホームページ <https://www.pref.saitama.lg.jp/02214/gakutyou/20150805.html>

### 3 児童生徒や市町村・学校への返却資料：（1）個人結果票②

#### 国語

#### 教科に関する調査結果

##### 今年での学力の変化

あなたの学力は、「レベル」で伸びました。

学年	国語			
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

##### 学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、昨年度と今年度の学習により、大きく伸びています。自分の学習への意識に自信を持ち、よき姿ぶりに伸ばせるよう、今後も読書などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

読むこと・聞くこと・書くことは大変よくできました。さらに力を伸ばすために、読み交する際には同級生とのディスカッション、読書の感想交流やなるべき書き、読むことに関するまとまり、読書が目的にあっていくか考えたりしながら、読書に力を入れていきましょう。書く際には、読書や学習の感想、手帳などのいろいろな形で伝えたいことを表現できるように心がけるとよいです。

また、授業や読書の時、質問や自分の考えなどを積極的に発表したり、いくつかの文章で構成されているか確認したりすること、力を伸ばすことにつながります。他の教科書については、読んだり書いたりすることを防ぐことにより、より集中できるように心がけましょう。

今年度のあなたの学力レベルを参考に、ホームページの「学習シート」を参照して、さらに自分の力を高めたいと思います。

#### 数学

##### 今年での学力の変化

あなたの学力は、「レベル」で伸びました。

学年	数学			
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

##### 学習に関するアドバイス

あなたの数学の学力は、昨年度と今年度の学習により、大きく伸びています。自分の学習への意識に自信を持ち、よき姿ぶりに伸ばせるよう、今後も読書などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

算数の成績は、大変よくできました。算数の成績の伸びに対しては、算数を効率的に理解し、その理解を積み重ねて理解できるようにすることが大切です。3年生で計算の基礎を固めて、4年生以降の学習を進める学習をすすめて、算数や数学の学習について、自信を持って取り組んでいきましょう。

また、数と式の学習においては、計算過程を意識的に書くことができるよう、意識的に書き出すことも、その計算の過程を理解することにつながります。また、数学の学習を通して、生活に関心したり問題解決したりする学習をすすめて、くり返し学習をして継続的な学習を進めましょう。

今年度のあなたの学力レベルを参考に、ホームページの「学習シート」を参照して、さらに自分の力を高めたいと思います。

#### 英語

##### 今年での学力の変化

あなたの学力は、「レベル」で伸びました。

学年	英語			
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

##### 学習に関するアドバイス

あなたの英語の学力は、昨年度と今年度の学習により、大きく伸びています。自分の学習への意識に自信を持ち、よき姿ぶりに伸ばせるよう、今後も読書などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

書くことは、他の教科に比べて、よくできました。さらに書く力を伸ばすために、書く練習や読書の活動など、書くことを意識しながら、単語や文法を学びながら、書く練習を積み重ねていきましょう。必要に応じて、読書なども活用しましょう。

また、英語の学習活動を進めるために「COOL」する、「COOL」である」の意識をもち、書く練習を積み重ねていきましょう。また、英語の学習活動を進めるために、書く練習を積み重ねていきましょう。また、英語の学習活動を進めるために、書く練習を積み重ねていきましょう。

今年度のあなたの学力レベルを参考に、ホームページの「学習シート」を参照して、さらに自分の力を高めたいと思います。

##### 教科の領域別正答率

教科	領域	正答率	平均正答率	
国語	1	4	73.0	82.2
国語	2	8	88.0	88.8
国語	3	11	92.0	78.7
国語	4	10	88.7	82.2



##### 国全体の正答率分布



2024-25

##### 教科の領域別正答率

教科	領域	正答率	平均正答率	
数学	1	13	78.0	78.8
数学	2	7	77.1	80.7
数学	3	7	83.1	88.8
数学	4	8	83.2	78.2
数学	5	12	78.8	78.8

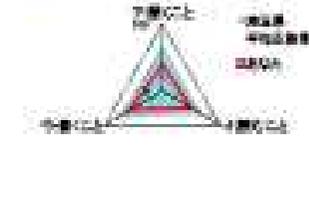


##### 国全体の正答率分布



##### 教科の領域別正答率

教科	領域	正答率	平均正答率	
英語	1	18	62.0	68.8
英語	2	18	69.0	78.8
英語	3	8	87.1	77.7
英語	4	18	68.8	70.7



##### 国全体の正答率分布



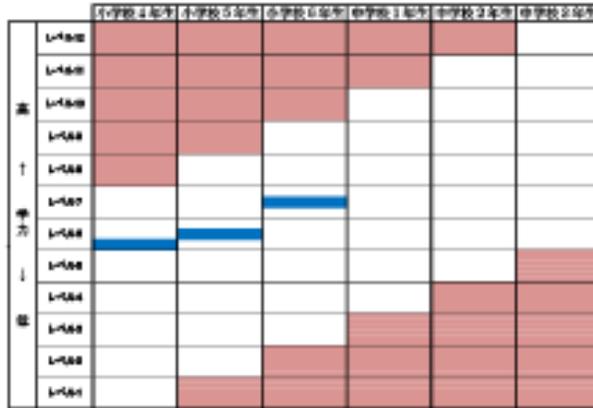
### 3 児童生徒や市町村・学校への返却資料：（2）市町村・学校への帳票①

埼玉県学調では、各市町村・学校が効果的に分析を行えるよう、約40種類の帳票を作成。

各実施主体の学年全体の学力レベルの変化や学力の伸びの状況を把握するための帳票

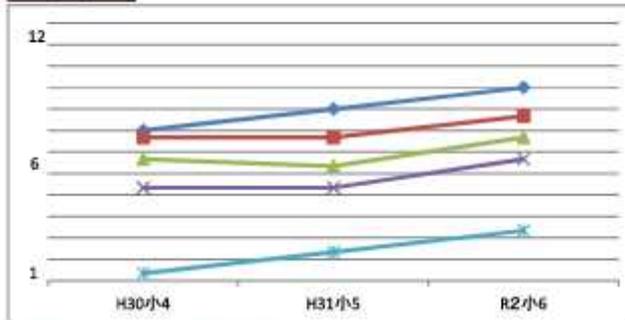
#### 国語

##### 今までの学力の変化

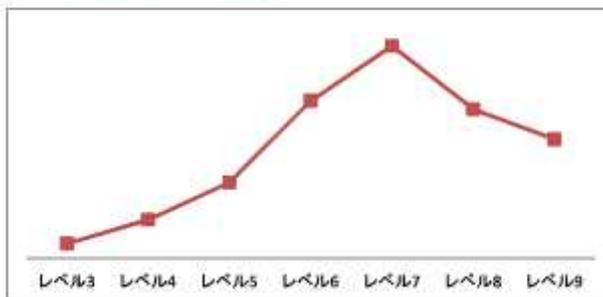


##### 学力の伸びの状況

##### 埼玉県



##### 学力レベルのヒストグラム



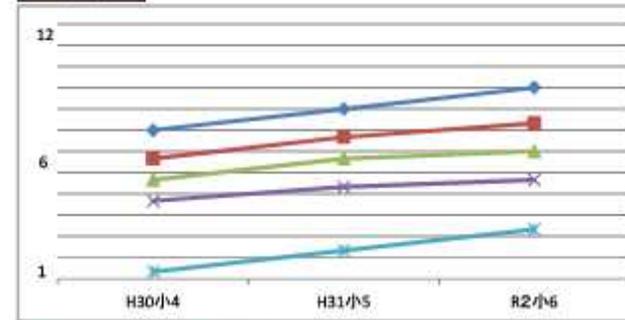
#### 算数

##### 今までの学力の変化

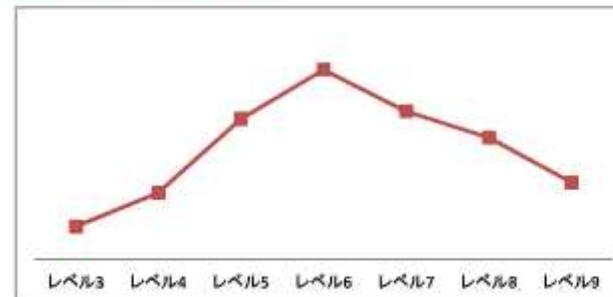


##### 学力の伸びの状況

##### 埼玉県



##### 学力レベルのヒストグラム



### 3 児童生徒や市町村・学校への返却資料：（2）市町村・学校への帳票②

学力を伸ばした児童生徒の割合や学力の伸び率を示し、実施主体が自らの状況を手軽に把握できる帳票

学力レベル36段階で1以上伸びた児童生徒の割合  
(1-Cから12-Aまで36段階)

[小6算数]

学校名	学力を伸ばした児童生徒の割合(%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合(%)	学力の伸び率 (R2学力レベルとH31学力レベルの差)
埼玉県	68.2	31.8	1.6
〇〇立△△小学校	70.2	29.8	2.3

学校の平均値

### 3 児童生徒や市町村・学校への返却資料：(2) 市町村・学校への帳票③

一人一人の結果データを一覧化し、学年主任や学級担任が現状を把握するための帳票

令和2年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校5年生)

学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

〇〇市町村立△△小学校

本帳票の「アタラシき学び」の項目「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～-1.0となっています。

数値が空白の場合は、よい値となっています。

児童生徒情報					国語		算数・数学		100→100(変化量)									自己調整													
					R2レベル	昨年度からの学力の伸び	R2レベル	R2レベル	昨年度からの学力の伸び	R2レベル	R2レベル	学習方略			非認知能力			アタラシき学び			学習方略			非認知能力							
												基礎的学習	応用的学習	学習意欲	学習習慣	学習態度	学習意欲	学習習慣	学習態度	基礎的学習	応用的学習	学習意欲	学習習慣	学習態度	基礎的学習	応用的学習	学習意欲	学習習慣	学習態度		
個人番号	学年	組	出席番号	性別	学校平均	7-B	3	B-C	7-B	2	6-A	0.2	0.1	0.4	0.3	0.1	0.1	0.3	-	-	0.5	4.2	3.8	4.0	3.9	3.1	4.1	4.2	-	-	4.5
					市町村平均	7-C	3	B-C	7-B	2	6-A	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	-0.1	-	-	0.5	4.1	3.4	3.6	3.4	2.9	3.9	4.0	-	-	4.3
					埼玉県平均	7-B	3	B-B	7-A	3	6-A	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1	-	-	0.5	4.0	3.5	3.5	3.4	2.9	3.8	4.0	-	-	4.3
児童01	6	1	1	1	9-B	2	B-A	9-A	2	9-C	0.1	1.0	1.0	0.8	0.5	0.3	0.5	-	-	0.0	4.4	4.8	4.5	3.5	1.5	4.5	4.3	-	-	4.8	
児童02	6	1	2	1	8-B	-1	B-A	8-C	1	7-A	-0.3	-1.3	0.0	0.5	-0.3	-0.8	-0.5	-	-	0.0	4.3	3.0	4.0	4.0	2.3	3.8	3.8	-	-	4.3	
児童03	6	1	3	1	7-B	-1	7-A	7-C	0	7-C	-0.4	-0.3	0.5	0.3	0.5	0.0	0.3	-	-	-0.1	4.0	3.3	2.5	2.0	3.3	3.0	2.5	-	-	3.5	
児童04	6	1	4	1	6-A	5	5-C	8-C	1	7-A	0.3	0.3	0.3	1.0	0.5	0.3	0.5	-	-	0.0	4.3	3.5	3.3	3.8	3.0	3.5	4.3	-	-	4.5	
児童05	6	1	5	1	7-B	3	B-B	6-A	1	6-B	0.1	-0.3	-0.8	0.3	0.3	1.0	-0.6	-	-	-0.3	4.4	2.5	3.8	3.3	3.5	4.0	3.5	-	-	4.5	
児童06	6	1	6	1	6-A	4	5-B	5-B	1	5-C	0.2	0.3	0.8	1.5	-1.0	0.3	1.0	-	-	0.2	4.4	3.8	4.0	4.8	2.3	4.5	3.8	-	-	4.5	
児童07	6	1	7	1	6-A	3	7-A	8-A	2	8-C	0.2	0.0	0.5	0.0	-1.0	0.8	0.0	-	-	0.0	4.4	4.0	4.2	4.5	3.3	4.0	4.5	-	-	4.8	
児童08	6	1	8	1	6-A	2	8-C	8-C	1	7-A	0.0	0.0	0.8	0.5	0.3	1.5	0.3	-	-	0.0	4.4	4.2	3.8	4.5	3.5	4.8	4.5	-	-	4.8	
児童09	6	1	9	1	9-C	4	7-A	7-A	0	7-A	0.1	0.5	0.3	0.0	0.0	0.3	0.1	-	-	-0.2	4.0	3.3	3.5	3.0	3.5	3.3	3.5	-	-	3.5	
児童10	6	1	10	1	6-A	3	5-A	6-B	2	5-A	0.2	0.8	0.8	0.3	0.5	0.8	0.5	-	-	0.0	4.6	4.2	4.5	4.2	3.0	4.6	4.0	-	-	4.8	
児童11	6	1	11	1	5-B	3	4-B	5-A	3	4-A	0.3	1.0	0.8	0.3	0.8	0.3	0.5	-	-	0.0	4.3	3.8	3.3	3.5	3.5	3.3	4.0	-	-	4.0	
児童12	6	1	12	1	6-C	5	6-B	7-A	4	6-B	0.6	0.3	1.0	1.5	0.0	0.3	0.5	-	-	-0.1	4.6	4.5	4.5	4.8	3.8	4.3	4.8	-	-	4.8	
児童13	6	1	13	1	7-A	3	6-A	7-A	1	7-B	0.1	1.0	1.0	0.5	1.0	0.5	1.0	-	-	0.0	4.6	4.8	4.3	4.8	4.0	4.5	5.0	-	-	5.0	
児童14	6	1	14	1	7-A	4	6-B	8-A	1	8-B	0.2	0.5	1.3	0.5	-0.3	1.0	1.0	-	-	0.1	4.4	3.3	4.3	4.0	2.5	4.3	4.5	-	-	4.3	
児童15	6	1	15	1	5-C	4	3-A	5-B	2	4-A	0.3	0.3	0.3	0.0	0.5	0.5	0.3	-	-	-0.1	3.9	3.3	3.0	3.0	3.0	3.8	3.3	-	-	4.5	

### 3 児童生徒や市町村・学校への返却資料：（3）分析支援プログラム

分析支援プログラム：調査結果データ間でクロス分析を行うためのプログラム

埼玉県学力・学習状況調査分析支援プログラム<小学校6年生 クロス集計>（学力伸びの階層）

縦軸カテゴリ→ 質問《学校の授業の予習や復習をしていますか》

横軸カテゴリ→ 学力の伸びの階層\_算数

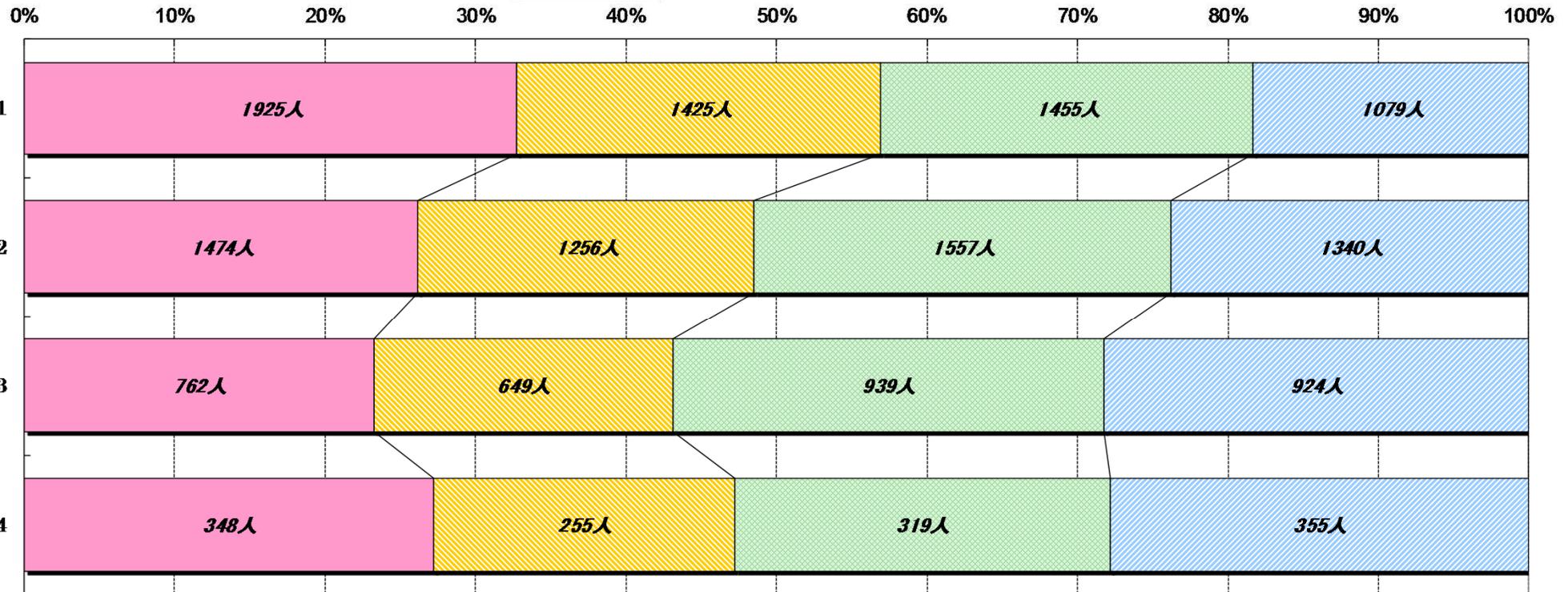
教科を選択

A(上位25%) B(上位26~50%) C(下位26~50%) D(下位25%)

1 2 3 4

1 している  
2 どちらかといえば、している  
3 あまりしていない  
4 全くしていない

1 2 3 4



## 4 取組の成果：（１）全国学調質問紙調査から

### （１）「主体的・対話的で深い学び」や「良好な学級経営」の進展

- ・児童生徒質問紙（R1）：全国と比べて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組や、良好な学級経営に向けた取組が進んでいることがうかがえる。 ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答を合わせた値 （単位：％）

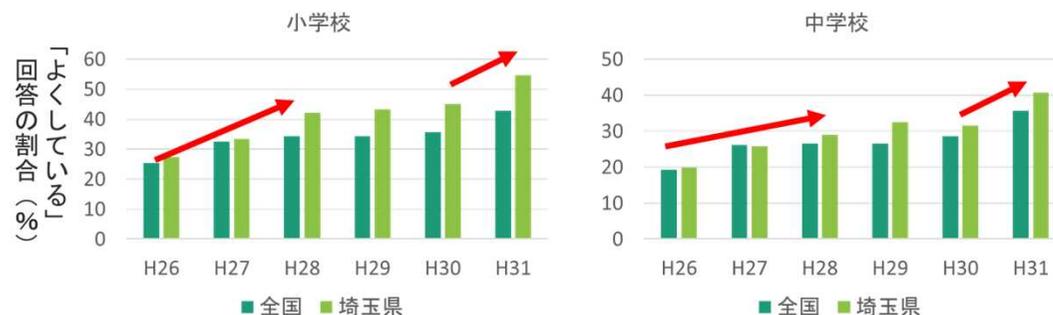
質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	67.5	62.5	64.8	55.8
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会等で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	81.2	74.0	81.2	71.6

### （２）学力調査を活用したPDCAの推進

- ・学校質問紙（R1）：全国と県の学力調査結果を併せて分析し、教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている」と回答した学校の割合が全国に比べ高い。 ※「よく行っている」と回答した値 （単位：％）

質問事項	小学校		中学校	
	埼玉県	全国	埼玉県	全国
全国学力・学習状況調査の結果を自治体独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている	54.7	42.9	40.7	35.6

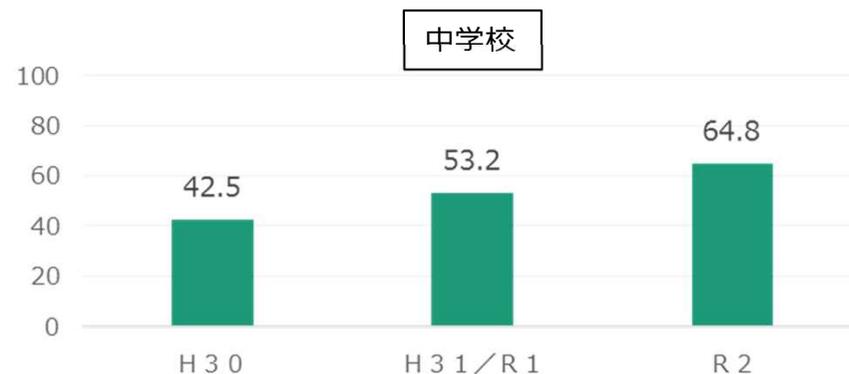
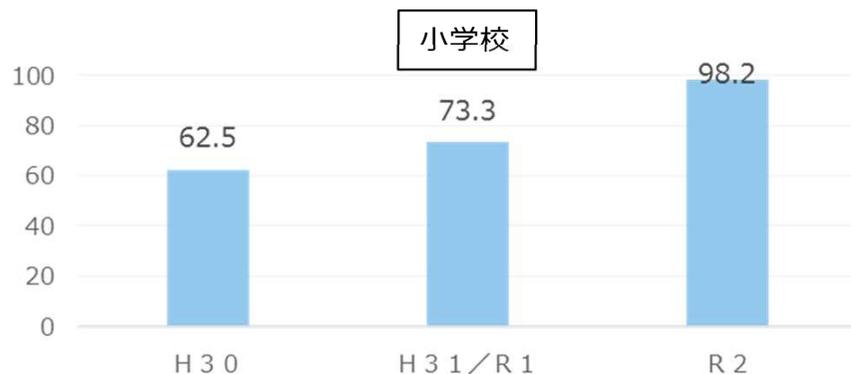
全国と県の調査を併せて分析し、PDCAサイクルを機能させて指導改善に取り組んでいる学校の割合につき、近年、埼玉県は全国を上回るペースで活用が進んでいる。



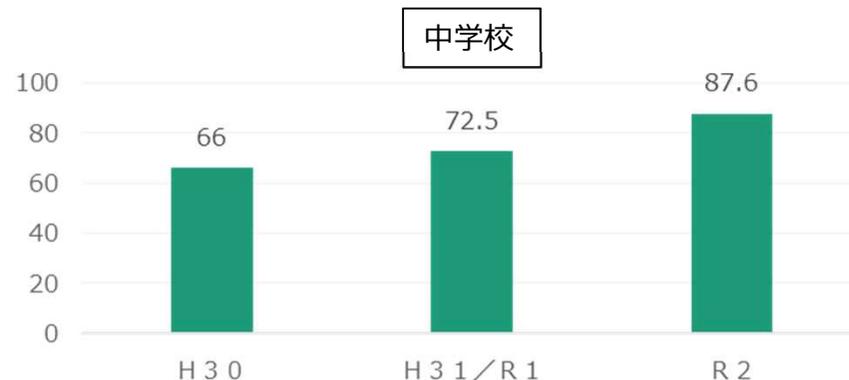
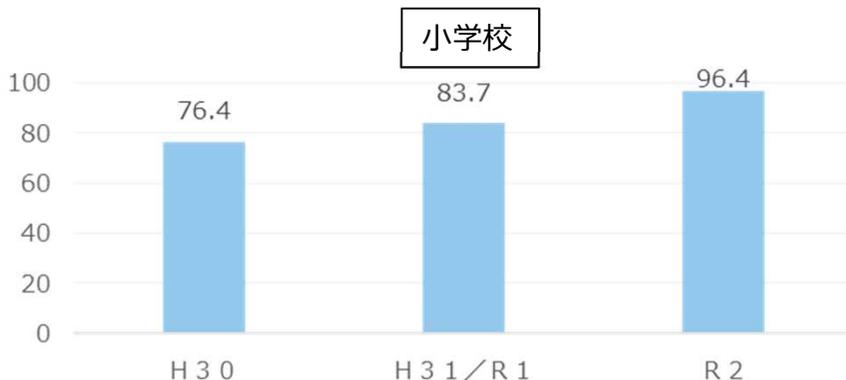
## 4 取組の成果：（２）埼玉県学調質問紙調査から

埼玉県学調の質問紙調査からも、学力等を伸ばした教員の優れた取組を共有したり、共有した内容を授業改善に活かしたりする学校が増加傾向にあることがわかる。

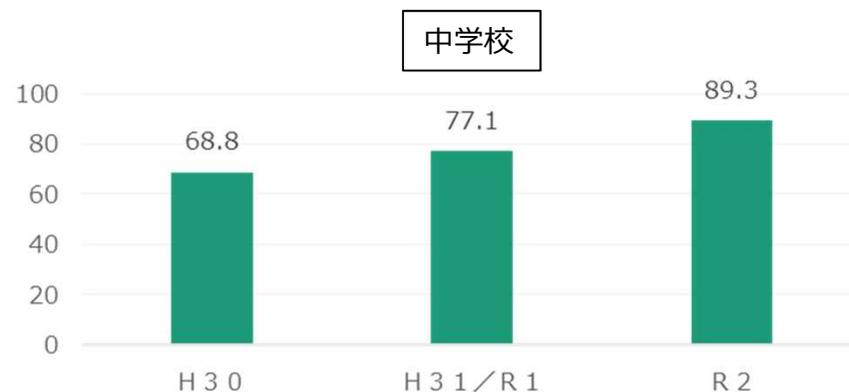
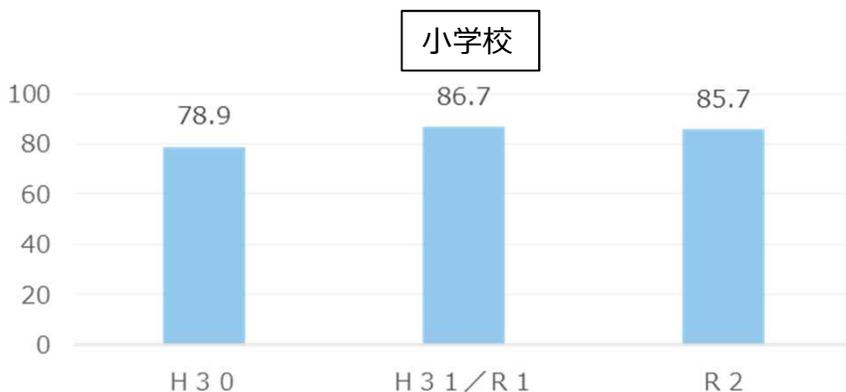
＜学力や非認知能力、学習方略を大きく伸ばした教員から、伸ばした要因等について把握するための聞き取りなどを行った。＞



＜把握した内容について話し合うなどにより、全教員で共有した。＞



＜共有した内容を、具体的な授業改善に活かした。＞



(注) いずれも、各質問に「はい」と回答した学校の割合

# 5 埼玉県学調のC B T化に向けて：（1）埼玉県学力・学習状況調査C B T導入推進事業

## 現状・課題

### 【埼玉県学力・学習状況調査】

- 対象：公立小中学校（さいたま市を除く）の小4～中3（毎年度約30万人）
- 実施形態：紙媒体（Paper-Based-Testing）で実施（以下、PBT）
- 特長：一人一人の「学力の伸び（経年変化）」や「非認知能力」などを継続して把握
- 今後の展開：調査結果とAIを活用した実証研究を実施。個に応じた指導の実現を目指す。

### 【国の動き】

- 新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（R1.6）  
ICTを基盤とした先端技術や教育ビッグデータを効果的に活用し、誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化した学びの実現が求められる。
- GIGAスクール構想：児童生徒1人1台端末、高速大容量通信環境を整備（R2～R4）
- 全国学調：CBT（Computer-Based-Testing）化検討WGにて検討（R2.5月～）  
CBT化に向けた取組をR3概算要求。小規模試行とオンライン学習システムの検討

### 【CBT導入のメリット】

- より精緻なデータの取得・蓄積・分析が可能
  - ・解答までの時間などのログや思考過程を取得することが可能
  - ・将来的に個別最適化学習のツールになり得る。
- 業務工程の効率化（コスト軽減にも寄与）
  - ・調査資料の印刷、配送・回収が不要
  - ・選択式問題の自動採点化などによる調査結果返却のスピードアップ

### 【CBT導入に向けた課題】

- 全小中学校で安定的・継続的に実施できる方式の検討
  - ※大量の問題・解答データの送受信方法（オンラインor外部媒体etc）
  - ※個人情報の取扱い（外部サーバーとオンラインで回答情報をやりとりするなど）
- CBTの利点を活かした問題作成、出題・採点方式・標準規格等の検討
- CBTの実施に必要な環境の整備（問題移行（PBT→CBT）、結果比較（PBT⇄CBT））
- 児童生徒（特に小学生）がICT機器を使用した学習に慣れる必要
  - ※授業におけるデジタル機器の利用時間がOECD加盟国中最下位

## 取組の方向性

試行・実証を重ねながら、県学力・学習状況調査を紙媒体での調査からCBT調査へ段階的に移行する。

## 事業内容

### 【令和3年度：フェーズ1】

- ・調査スキームの検討（問題設計、実施体制 etc）
- ・モデル校（複数市町村の小中各4～5校）で  
CBT調査を試行（問題作成、調査実施、採点まで）
- ・CBTの実施に必要な環境の確認（問題移行、結果比較）
- ・課題の検証、対応策の検討、スキームの修正

### 【令和4年度：フェーズ2】

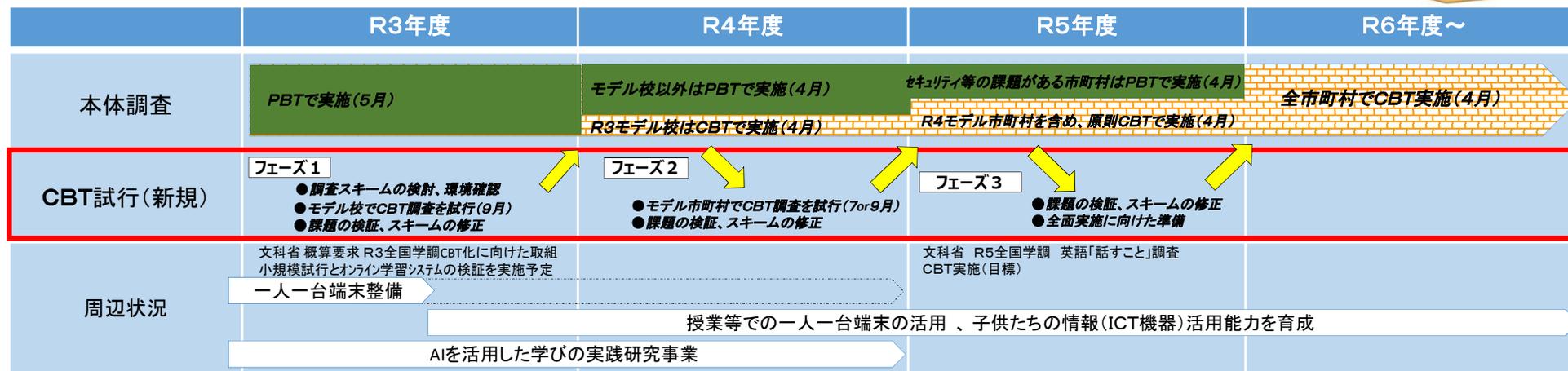
- ・R3モデル校は本体調査でCBT実施
- ・モデル市町村全体（R3モデル校のある4～5市町村）  
でCBT調査の試行（問題作成、調査実施、採点、分析）
- ・課題の検証、対応策の検討、スキームの修正
- ・市町村・学校への説明、実施に向けたフォロー

### 【令和5年度：フェーズ3】

- ・本体調査を原則CBTで実施
- ・課題の検証、対応策の検討、スキームの修正
- ・市町村・学校における全面実施に向けた準備
- ・個人結果票の電子化にあたり、「個別アドバイ  
スシート（AI事業の成果の一部）」を活用

### 【令和6年度～】

CBT全面实施



精緻なデータの蓄積・分析を実現し、個に応じた指導により、学力や非認知能力など子供達の成長につなげる！

<GIGAスクール構想の進捗状況>

・全ての自治体が、全ての学年分の端末を年度内に調達予定。

・OS選定の状況は以下の通り。

Chrome OS：35自治体

iOS：7自治体

Windows OS：20自治体

iOSとWindows OSを併用：1自治体

・学校外との通信環境については、多くの自治体では光接続方式を取っているが、一部、LTE方式を取って自治体もある。（なお、校内ネットワーク環境については、年内にほぼすべての学校で工事が完了予定）

→多様なOS・通信環境等に対応したCBT調査を設計することが必要。

※1月～2月に実施した文部科学省調査等から作成

### メリット

- より精緻なデータの取得・蓄積・分析が可能
- ・解答までの時間などのログや思考過程を取得することが可能
- ・将来的に個別最適化学習のツールになり得る
- 業務工程の効率化（コスト軽減にも寄与）
- ・調査資材の印刷、配送・回収が不要
- ・選択式問題の自動採点化などによる調査結果返却のスピードアップ
- 問題の管理負担や漏洩リスクの減少
- ・現在、紙媒体で問題を配布・回収しているが、CBT実施により学校の管理負担が減少。問題漏洩リスクも低減

### 課題（≡今後の主な実証事項）

- 多様なOS・Webブラウザ・通信環境の下でも安定的・継続的に実施しうる調査設計の実現
- 市町村や学校、教員の実施上の負担を可能な限り低減した業務フローの実現
- これまでの調査結果と、CBTで測定した調査結果間での比較可能性の確保
- 選択式、短答式、記述式等の問題方式の設定（特に短答式、記述式での文字入力や、英語のリスニング・ライティング等の実施方法）
- CBT調査ならではの問題の検討・作成
- 取得した解答ログ情報等の有効活用に向けた方策の検討
- 基本的なICT操作スキルなど、児童生徒の情報活用能力の育成
- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援

等

## 5 埼玉県学調のC B T化に向けて：（４）全国学調との関係等

### （全国学調と地方学調（埼玉県学調）の役割分担）

○埼玉県では、全国学調と埼玉県学調のそれぞれの特徴を踏まえて、以下のように活用を進めている。

- ・全国学調は、調査問題や解説資料等を通して、新学習指導要領で示された「児童生徒に身に付けさせたい資質・能力」を具体的なメッセージとして示している。（県としても、対象学年・教科以外の教員も含め教員全体で全国学調を解くなどして、「児童生徒に身に付けさせたい資質・能力」を組織的に把握するよう指導している）

- ・埼玉県学調は、児童生徒の学力の伸びを測定できるという独自の特長を有する。

→全国学調と県学調のそれぞれの機能を踏まえた活用が重要。

仮に、全国学調を I R T で実施し問題を非公開とするとしても、教育指導上の役割を担保する仕組みが必要ではないか。

### （全国学調 C B T 化への期待・提案）

#### ①実施準備について

- ・令和元年度の「話すこと」調査では、U S B 方式による実施で学校現場に大きな負担があった。次回（令和 5 年度）の実施に当たっては、事前の動作確認等も含めて、学校現場への負担に配慮いただきたい。

特に、事前のフイージビリティ検証も大規模一斉に行うのではなく、小規模での実証・改善を段階的に重ねることが必要ではないか。

- ・仮に G I G A スクール端末を活用して次回の「話すこと」調査を行う場合は、ヘッドセット等の機器準備も必要ではないか。

#### ②実施方式について

- ・規模を生かして、複数回実施や個に応じた問題を変えるような実施方式も検討いただきたい。

- ・特別な教育的支援を要する児童生徒に関して、学校に負担がかからない調査の仕組みが必要（日本語指導を要する児童生徒については、振り仮名が画面上に表示されるなど）。

#### ③調査結果について

- ・仮に全国学調が I R T 方式を取っても、自治体別の平均正答率で実施結果を公表すれば、その数値ばかりが着目されることになる。I R T に適した調査結果の公表の仕組みが必要。

- ・自治体職員や教員にデータ分析の知見は乏しいので、分析結果を分かり易く指導主事や教員に伝える仕組みや、分析結果から課題を読み解くためのデータスキルの育成が不可欠。

#### ④その他

- ・キーボードなど P C 操作面の影響が少なくなるよう、並行して児童生徒の P C 操作スキルの積極的な育成が重要。教育指導面での対応も必要ではないか。